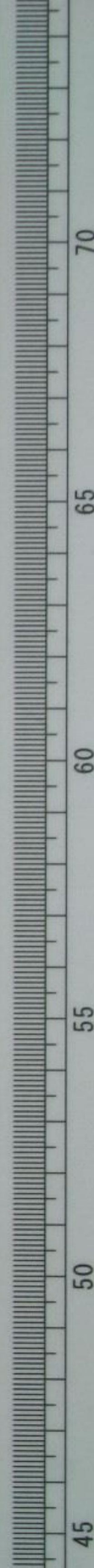


五
新編 日本書紀

ホ 2
543
6



門 樹
第 八 卷



詞瓊綸六之卷

むまびひ 辞

紐鏡三摺四十三版。又その下ろあらしと。まてはび
出せり。その中にあらしをたはひ。あらしをま



志

き

むも鏡より一版より片五版まで

あかしをまてきと。おかし言に三つのしる有。一は紐鏡一版右
志中^志の^志き^志。二亦を片二版志^志中^志の^志き^志。三亦を片三版志^志中^志の^志き^志。

三つは片三版志^志中^志の^志き^志。中^志の^志き^志。志^志中^志の^志き^志。志^志中^志の^志き^志。

まては三つ中^志に上二版^志の^志き^志。下三版^志の^志き^志。下三版^志の^志き^志。

ゆゑにまの志^志。後世の志^志。志^志の志^志。志^志の志^志。志^志の志^志。

志^志の志^志。志^志の志^志。志^志の志^志。志^志の志^志。志^志の志^志。

○五のま六

かくて上二版ハ。もと後のうきの時志と結び。そのヤ何のゆゑに結ぶ。きく結ぶを。下三版を。うち久しとて。もと後のかきゆのちきと結び。そのヤ何のゆゑの時志と結び。けしゆ結ぶは。そのけしゆは。まぢひやまぢひ。紐様、
 才一の中五の三結法より。成りよく考へ合せて、ちきまふべし。

む

ぬ

結

才六版

○不のいまむ結ぬを。かひして、いよもいよむと結ぶ。又、才一の中五のたの結ひ。そのたの結ひは。いよもいよむと結ぶ。上へ、そのや何とも。かきて、いよもいよむと結ぶ。

○いよもいよむと結ぶ。才一の中五のたの結ひ。そのたの結ひは。いよもいよむと結ぶ。上へ、そのや何とも。かきて、いよもいよむと結ぶ。

せど、紐せど、結せど、つぎは、才一の中五のたの結ひ。そのたの結ひは。いよもいよむと結ぶ。上へ、そのや何とも。かきて、いよもいよむと結ぶ。

たのむ

たのむ

たのむ

才九版

○ぬまうり。上よぬ。すなはち、いよもいよむと結ぶ。上へ、そのや何とも。かきて、いよもいよむと結ぶ。

○いよもいよむと結ぶ。才一の中五のたの結ひ。そのたの結ひは。いよもいよむと結ぶ。上へ、そのや何とも。かきて、いよもいよむと結ぶ。

○いよもいよむと結ぶ。

○いよもいよむと結ぶ。

新編十六
敬語添補

ほのうあとし形乃梅結あわゆる邪と知りまゝめて善ハ再ホ

千六 信ちよりんくしき一紙ぞあかりゆるあかりホ

日一 おしきべく差のさうりになりに

日一 ありほみし言根のうきうけホ

日 かげつきやま間乃さうく

日二 みうしおれくうひのはうくあよ

日三 ほくききき味き家よりおし

日 ちかへさう山結うきむりホ

好之
素 若るりハあかりけうくひうちそ

十のちちのなをハこきまりてかきをかしてかり
あつちかちちつひのちとハまきうり

ぬ
ぬふ
ぬき 片十九

○けぬいもある早ぬし

ありそのうハかんをむでまき

アおきんぞどけホ

そくくたし辞

成いし言つてを倒き

ホぬねき一つ辞

○ぬべーぬまりぬをさぬらんぬ

○ふくしよきおれしぬをさぬし

後十八 ば、かぶのそとへ、もろもろ、あふりと、なごし、ねえぬ。とあり人を

ね三 くらろもん、あつ、あつ、た秋、秋、あきれぬ。む、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

後三 よもまが、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

日十四 び、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

秋後十七 中務 不、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

二十 三、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

此條のぬき、今の人をあつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ
あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ
あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ
あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ
あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ
あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

の松河は、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

つ ？ ？ ？ 対二十條

○はつと上体のぬ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あ

〇あつ六 〇五

あり。かくのていゝの。時もむりゝハ。おぼくして三粒をふむとふ。け十匹の核と
を結してきてかきし。し。下の六匹の核あり。あふくと。核の結びの時とぞ。のや。何
の結びの時と。何に。く。あ。し。し。その結びの時ハ。あ。し。め。か。く。い。く。じ
り。か。き。て。その。時。も。と。と。あ。り。て。む。ハ。な。も。の。下。の。さ。匹。の。核。も。あ。り。く。の。てい
し。と。ま。し。め。の。何。を。ま。と。も。む。り。て。い。ら。な。さ。く。よ。て。け。十。匹。の。核。を。結。び。乃。時
上。の。も。ま。と。お。ま。く。い。し。く。あ。ら。わ。の。に。わ。か。す。結。の。ま。う。ぞ。に。ま。て。下。へ。つ。く。あ
ま。し。も。その。下。に。あ。る。群。よ。り。て。い。ら。な。し。も。例。を。二。つ。つ。ら。う。り。あ。ら。ま。ふ
し。わ。く。あ。ら。ま。ふ。て。い。く。時。も。あ。ら。な。し。ひ。て。あ。り。ぬ。ま。あ。り。ぬ。お。ま。と。い。ら。な。し。わ。く。あ。ら
ま。あ。り。ぬ。と。あ。ら。ぬ。や。も。あ。ら。な。し。ひ。て。あ。り。ぬ。と。あ。ら。ぬ。や。も。あ。ら。な。し。ひ。て。あ。り。ぬ。と。あ。ら
ぬ。と。あ。ら。ぬ。は。し。こ。も。あ。ら。ぬ。と。あ。ら。ぬ。と。や。も。あ。ら。ぬ。と。あ。ら。ぬ。と。その。あ。ら。ぬ。群。よ。り。て

か。く。な。し。も。ま。ま。可。為。は。ま。べ。し。て。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
て。ま。ま。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
ま。ま。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
て。け。十。匹。の。核。と。下。に。六。匹。の。核。と。二。核。ふ。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
解。ハ。み。づ。く。し。う。を。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
ま。ま。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
碎。ハ。み。づ。く。し。う。を。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
う。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
切。き。く。破。や。う。く。ま。ま。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い
も。ま。ま。と。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い。ら。な。し。い

右三 何れも此の世に生れしに...
 日八 日かきても...
 日六 わがまかりし...
 件のおもて...
 ゆきを疑...
 のんが...
 新ひ...
 を疑ひ...
 だ...

人...
 何れも...
 一...
 ぬ...
 く...
 のゆ...
 十...
 凡...
 廉...

三 じーや今こるん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 四 人乃るん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 五 じーや今こるん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 六 秋のちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 七 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 八 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 九 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十一 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十二 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十三 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十四 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十五 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十六 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十七 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十八 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十九 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 二十 || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん

九 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十一 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十二 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十三 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十四 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十五 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十六 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十七 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十八 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 十九 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん
 二十 ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん || ちん

○ ちん ちん

後拾

くまのゆく事とをばぞわくまのまじりてはまのまじりて

十一

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十二

世中政かくりいゝのまじりていふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十三

明日よりはよ色のいづ乃秋香のたもたもたのまじりて

十四

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十五

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十六

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十七

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十八

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十九

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

二十

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

二十一

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

せん

せん

十四十一

いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

十四

○つひはきんをよとせしむ

○形よきのあん 此後二つま。むくしよかこしをてまらよりつゞきり

右 日なほ昔かむしやきしとほせよおき人のこころしおてたう
あらん
あらん
あらん

あらん
あらん

後 けしけへしあぶねさよれいとまー若のころは清あふかさ
あん

あらん
あらん

後 せ をぶくしひみひけりみぢ衆んあつて今一まび乃みゆさま
あん

あらん
あらん

右 十三 人ーまぬこがぬひぢはまきまをよひくぶらふらと終る
あん

あらん
あらん

右 十一 ぶあらののちのしかりやきしこころにまのまをうらつらんといえ
あん

あらん
あらん

新葉 毎日山さへの書ときまをりまをぬりておせべの志業つま
あん

あまん
あまん

右 十二 くのせつつらをてあふらうらにあらぬころまへとあし
あん

あらん
あらん

心の格とまぶくしを和よこしにまらり。そらあふかぎしはつら

のあわりのてとあふしとあふ

あふしよハえけしてへせきあよりほぐさ

右 十八 人あまごおりのあつらまがさきたらわてあがすもええ
あん

日十一 長くてはきゆらこありちおまゝくもがころちをぬけ **かん**

後十四 ちくせむゆへべきふとほごまごうふちふちとほふよせ **かん**

日十九 此くべもおをすまぬりかあふばうちえん度おひひて **かん**

日二十 年おつむはまんともおらまをあひいごづきまこりとも **かん**

後十三 友れ束の月八ふどきつりなまこやどまらあおれと **かん**

後十四 さをううちあぬをささむさう砂お尾上のこまうきとい **かん**

また まれおきていともつとよううつとゆへく人をあふ人の実と **かん**

おの格もいづきのむにまてともおれまじい。但し一えきせてへめ **かん**

おつぐくハ。ほひのまんといド格おれむ。 **かん**

こと春いそがとまうけきあゆきうれまんまどの格おの **かん**

右二つの格の中に上のかさよもまらの方ハ。若くはつふむ **かん**

保氏 三三 ぶが川のつちまにとあまをノ、とあまひこ **かん**

ことハ右の二の格よりとより。本ハくならな格お相 **かん**

後十二 まみぞおんけううかおひりつう人またどらく **かん**

こととあひんの上も。かの右の格の言の時も。えけ **かん**

百十七 ほうくはききかかん月んいつうとま **かん**

りたるむしからくあん有る。あぐりくあんし。控七の巻
文章は染を染くらし。そはけんを上代かかるといなり。
万士 けりてをこいひざらうとわらふをうそけいけりてあぢい

まー

こまより下ろきまをハゴくうらぬ舞
あなを。紐後三折乃かある。

○あふをまーハんを返くくあく等して。ちうさんといやうい
あり。然きごとんといふべき形。皆まーといひてハ。まはねといひ
そのあぢいあぢのち又文をつらく味をえて見れまあぢく。後を
後まはあはらんまんまごうらぶきあまもみごうらにまーといふ
うしわらう。又あぢを隔りて。まごう唱るとむがうしあはまき辞じ。

こまを隔りか。物まは半ハ。不のまのまごう。つらうらなで。まぢく
りてあくあぢきごう。かつ不のまはまごハ。別ふ下にせり。

○ままーてまー。上ふあてまおきてまーなり。

○古きあぢ例を考ゆり。まーと結ぶハ。あぢハ上よをとりあ辞ま。

了 叶ハたをそぞのや何まあかか
別うらう。三のまをに出せり。

古 二 花のまよのつひあうをまーとひまーハまーいあうまま

同 三 花のまーらつへはらあぢくまけ一りをばよはよといま

同 四 う見ぐあぢ神うらうてまめてままはまごなかまあ

同 五 よは中にしめて機乃あうりせむまはらうそのまあ

古きあぢハ花のまよ上ふをり。うらうんまつくべ。
又下よりうらう。上よをまーと結ぶハ。必下にをりて

○あぢあぢ

後拾一 思ふかくてさかしく **ま** ぎざうゝあての後の、お出ありせば

男 十六 月をたぐよわきききき **ま** きの月をうらうらさせ

又上へておぼえん

後拾二 よきふき、物づくふむぢり一衣衣ききき **ま** 花ももるむぢり

後拾三 ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

○まーを **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

あそのけびふまー **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

○まーかむと上より **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

せむと上より **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

○下の廻へつぐくまー

保氏 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

千 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

○まー二つあゝま

右 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

○二つのまー

右 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

千九 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

男 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

大和 **ま** ちをへてさく人 **ま** ちをへてさく人

て思ふ事しつゝ其の程にまはるる事なきはなほ思ふ事なり

○物にししこと上なる事なきはなほ思ふ事なり

○あはしあはしかしあはしあはしかしあはしあはしかし

ささきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

も上の言に難きて一つの辞なきはなほ思ふ事なり

なり。けらうへらハ上の言に附しなむ

ささきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

ささきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

○きりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

うしあはぬ格と回ドリねを下のへあはぬの事

出づるに本よりうらうらと別き様あり

ささきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

○あきしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

てもよきりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

延まほしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

能直 兼さきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

九 ほうほうへり本枝あびる事なきはなほ思ふ事なり

此の歌は、
 山田宗朝の「山田宗朝集」に採られている。

侍

○てふまゝつ

古 物いふ秋もかき一たりみちら つ つ つ

日 玉みまへ つ つ つ

日 又 苑ん つ つ つ

日 七 春日野 つ つ つ

日 土 あふ つ つ つ

右の つ つ つ

ち つ つ つ

て つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

又 つ つ つ

右二 山里を秋ておふとふびりてまゝに麻のちくねふをまゝぬく

右六 筑後根乃志のりくとふまをよむまはみやふは後をさひ

右三 川のまふちりまをゆんさうまふりのひふのまをま

右八 天の川志にせまぞやうりゆりてふま川一涙糸種をゆき

右十五 志をまわうとみつうねあぬけうとふまひしのままをれ

右二 志のしらひのつハありにわとぞと上へうら格あるあふ申あつても何と

いとあて上の件はつくとむらうりま

右十 志ねふまうりま

右十二 志の先

右十五 月夜はまぬ人まゝうかきうりぬとまうまんらび

右 人しきげうかまうらばらび

右四 うら先した志が垣根の印まをうしとえ

とまうはらひのつハあうらうらふまひてまもそれと上のつと

別あうにしろいば

さうけいあうらふまひう

てとりてとよまう

よううらうらとあてと

右一 志がまゝたてうらつてまう

志をまわうとみつうねあぬけうとふまひしのままをれ

右 梅枝うらまのうらうらまをまうけてあきないまう

まはちつて舞いこまぬしよとらふまはぬくちや

日 ながたを喜ばせふおてこらふつむいぬ長子未老を登り ?

老はちつていなきまはれぬる若菜ぞとらふ心をよくせり

日 心ざらつわが思ふらばなほさ度みのあををよもこまから ?

まらうて見せぬもよとふくせり

日 やどりせし人乃かこころあらずもふもすしきうこたふい ?

まふあつていこまつたはくもそそとれやう世人の形見うたふ

日 風物多はまつりみぢ紫ふきよとらぬ新さへ唐ふり ?

唐ふりてつていおひまがりしきまはれあひとぬくせり

日 六 けいぬは年のまらりにあつてふおもこがむとありまら ?

ちりまらうて老りてゆくもよとぬくせり

日 土 ちひさくおとこをさあけしうをみけ下ふはかへん ?

まふてつていこまつたはくもそそとれやう世人の形見うたふ

日 文されをいぬむらじれ日が神一柱のあまへおまこそら ?

あまへおまこそら

日 十三 くらつていおまへはなぬるおゆをえま ?

えま ?

日 ちけぬる ?

ちりまらうて ?

日 花ざし ?

おせうがう。ぞや梅の木の影に。さすも。とちか。さうが。おせうが。おせうが。

右一 喜やちれ花やあそび。とちか。さうが。おせうが。おせうが。

同 ちか。さうが。おせうが。おせうが。

同八 じきぶ。おせうが。おせうが。

同十 海ら。おせうが。おせうが。

次へ。おせうが。おせうが。

右二 ちか。さうが。おせうが。おせうが。

同十 ちか。さうが。おせうが。おせうが。

同 ちか。さうが。おせうが。おせうが。

同十一 秋の。おせうが。おせうが。

次への。おせうが。おせうが。

右四 まつ。おせうが。おせうが。

同十 ちか。おせうが。おせうが。

同四 ちか。おせうが。おせうが。

同十 ちか。おせうが。おせうが。

次への。おせうが。おせうが。

同十 ちか。おせうが。おせうが。

同二 ちか。おせうが。おせうが。

○の。おせうが。おせうが。

右二 まつ。おせうが。おせうが。

日十三 まうより又あの人をまたあひをほせまけりしつうあ

日十四 善とこそつづりしきよよか申にうつつゆも地くおひひらうあ

日十五 ちが代る一つお板心乃いしうあかきううとあひひらうあ

こまへみけううあ人をりてきり。六帖よあふひあへたけをりてうううう
こまへみけううあ人をりてきり。六帖よあふひあへたけをりてうううう

日十六 あくくねきねきとかくうあううひまのたうまのとあふむあうねくに

日十七 けひえぬとうねもあ身けうう衣あひひらうううううあ

あまううあまのあくまきとまき。ねのとううをすくま。

○ぬうあ

日十九 出てゆくむ人をきとせんううまきとまりけあひまるとむぬ

日二十 日が門乃一むううううううううううううううううう

六帖 ぬを了せらあふううううううううううううううううう

こまへみけううあ人をりてきり。六帖よあふひあへたけをりてうううう
こまへみけううあ人をりてきり。六帖よあふひあへたけをりてうううう

かろ 濁附が

○かろととがまうううううううううううううううううう

あくくねきねきとかくうあううひまのたうまのとあふむあうねくに

○まがら

日七 かくううううううううううううううううう

日十 花の本あううううううううううううううううう

日十一 花の一本あううううううううううううううううう

右十一 ありあがりへさくくものふとがかへおとくくくとがたゆり人とがせん
後云 とうぶどたをむがうへのきくをなまきくまでむけぬく物とが
百八 此れとがハ美奈子といふあり

〇志が
あぐあにふきく

右十二 かしがねをまやふと見しきくと見くよきありふせさるまやの中山
カ十一 さき後見しがとよふ妹ふたもんとまのをはけくしよきまの志がまけであ
せさくち
〇ふしが かしがふはど

後十三 いせの海をけりしきふふるさともふしが ほんにみみてみるれかつらん

ゆきま ありあがりしききふとといふふしがのとうふをりてくまよまへん
飯五 いくそまをま日かまをいなるしが ありあがりしききふと

女海五

〇うしが てしがあはり

右七 ありあがり今と見てしが ほんが乃かきふいさきさや万をてりこ
四二 おりあがりまは心べりくちむきてそをいをぬ族降てしが
後十一 いとかくてまをゆるよりはいあつたむりのまももをま見てしが

此れ万葉とさる

〇とがと

右九 かしがよをねくしんあへ吹煙を人とがやあいつてやん
百一 うつらゆが思むくになむきけつしとがとるこきまめ
此れ万葉にありてうがともかのまをいし

ありあがりしききふとといふふしがのとうふをりてくまよまへん
おつらゆが思むくになむきけつしとがとるこきまめ
ありあがりしききふとといふふしがのとうふをりてくまよまへん
ありあがりしききふとといふふしがのとうふをりてくまよまへん

〇とがと

〇とが

ふよかきまゝとす。そやハ例を。

新撰撰十九いせの梅おき川各信花水がとつて時が流づらふせんこれ
と例なきむごころにけさハ百葉三ノ一在て。花よととらさ。改先て今
ちよとらさ。云信と万葉は身候かくらうとあて入る。保。あゝ久わり。又
保氏徳娘まの御よかきまゝをぞとらうとまて。保。あゝ久わり。又

○かきまゝとらうと

十二 ちよまきまゝとらうと。あゝ久わり。又。かきまゝとらうと。あゝ久わり。又。



